

ゆたあ〜と

発行
小国公立病院
0967-46-3111
おぐに老人保健施設
0967-46-6111
訪問看護ステーション
0967-46-6050

35号
令和元年7月25日

小国公立病院
HPアドレス
<http://www.ogunihp.or.jp/bind/>



祝 片岡副院長、『やぶ医者大賞』を受賞 祝

先月、兵庫県養父市主催の「第6回 やぶ医者大賞」に、副院長の片岡恵一郎先生が選ばれました。

この賞は、へき地医療に携わる若手医師にスポットをあて、へき地医療の魅力の発信や医師の確保、地域医療の発展に寄与することを目的とする賞です。

片岡先生は、今回、おぐに整形外科の梅田先生、小国郷医療福祉あんしんネットワーク、阿蘇郡市医師会の推薦を頂き、応募されたとのこと。

「やぶ医者」と聞くと、少々不安を感じる名称ですが、本来は「名医」のことを現すそうので、語源は、名医が養父のある場所、ひっそりと隠れるように治療を行っていたという「風俗文選(ふうぞくぶんせん)」という俳句集の中で紹介されており、「藪医者(やぶ医者)の語源が、養父の名医」という事から兵庫県養父市が平成26年に創設された大賞です。

片岡先生の魅力である明るさ、コミュニケーション力、行動力、患者様への接し方などに、町民や職員、小国郷の多職種の方々が、引きつけられ、この大賞に繋がったのではないかと思います。

これからも「やぶ医者(名医)」として、小国郷の地域医療、介護・福祉の包括、連携に活躍して頂ければと思います。受賞おめでとうございます。

受賞された、片岡先生よりコメントをいただきました。



やぶ医者大賞に

選ばれました。

副院長 片岡恵一郎



熊本日日新聞にも掲載されました

この度、やぶ医者大賞という賞を頂きました。

このやぶ医者大賞は、おぐに整形外科の梅田先生にご紹介いただき、小国郷医療福祉あんしんネットワーク(佐藤盲人代表)、阿蘇郡市医師会(平田智美会長)の推薦で応募させていただきました。

小国公立病院に赴任して7年、坂本先生を筆頭とした公立病院組合のスタッフ、小国郷の医療・介護・福祉業界の多くの方々、町の医療・保険行政を担っている行

政の方々、そして、小国郷にお住まいの住民の方々、沢山の方々に支えられながら、多くの町の医療・介護に関する事業に関わらせていただきました。

今回は、この7年間の関わった事、特に、小国郷医療福祉あんしんネットワークで5年間行ってきた事業を中心に、小国郷地域医療への自分なりの想いをこめ、実績を綴ってみました。光栄な事に、全国で二人の枠に選ばれる事ができました。

この賞は、全国で地域医療に邁進している50歳以下の若手へ贈られる賞なので、私の名前での受賞となりましたが、小国郷のこの5年間の取り組みが全国に評価されたという面も大きく、自分の事というよりも、地域の事が誇らしく嬉しい気持ちでいっぱいです。

8月24日には、養父市で授賞式と記念講演があります。地域医療に人材を確保するために設けられたという賞ともお聞きしておりますので、全国に向けて、小国郷の医療・介護業界の取り組みの素晴らしさと、地域医療のやり甲斐を伝えて参ります。

今後とも、町民の皆様のご指導・ご支援よろしくお願いたします。



杖先ゴム、すり減っていませんか？ 危険

足の痛みや足の障害、筋力の衰えなど、自力での歩行が難しい方が使用する『杖』。歩行を安定させるためになくはないものです。

『杖』の役割は、①歩行時の安定感や転倒防止 ②体にかかる負担の軽減 ③行動範囲が広がる など、『3本目の足』となり、歩行を助けてくれる道具です。

最近では、高さ調整が可能なものや、1本杖だけでなく、接地部分が3本や4本にわかれているもの、花柄や色鮮やかなデザインのものなど、たくさんの種類をみかけます。



実は、杖の機能性やデザインに目がいきがちですが、目立たず、でも一番支えてくれている、一番頑張ってくれているのは『先ゴム』です。杖を突いたときの衝撃を吸収し、地面にしがみついています。そのため、屋内外の様々な環境下で使用するので、ゴムの劣化が生じます。車のタイヤと同じです。

その体を支えてくれる先ゴムは「消耗品」です。使用することで、すり減り、劣化して固くなると、滑りやすくなり、転倒の危険性が高くなります。

体を支えてくれるはずのものが、危険な道具となってしまいます。

「まだ使えるから」「もったいないから」などと躊躇して交換時期を逃し、万が一転倒して怪我をすると大変です。溝がなくなったり、片すべりがひどくなったら、またはそうなる前に、必ず交換をしてください。

先ゴムは比較的安価で購入できます。種類によって取り寄せなどで時間を少々頂くこともあります。

小国公立病院では、外科外来とリハビリテーション科で交換が可能です。

『転ばぬ先の杖』と言います。前準備が必要です。「自分を支えてくれるお守り」として、時々、「大丈夫かな」とお守りの様子を確認してみてください。



きけん!



(リハビリテーション科 渡邊あゆみ)

夏の風物詩 そうめん流し



毎年恒例となった「そうめん流し」。今年は7月10日に行いました。老健スタッフが、山から竹を採ってきて、割って、節をとり、組上げ、飾り付け。風情ある土台が完成。

利用者の方々も、「そうめんは食べるけど、本格的なそうめん流しは家じゃせんもんなあ」と楽しまれていました。



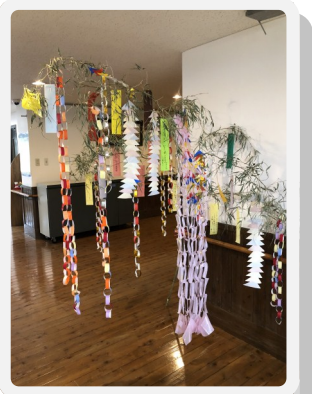
老健
便利

バスハイクに行ってきました!!



バスハイクで高塚愛宕地蔵尊へ行ってきました。今回は、入所者数名と、坂本施設長も同行して頂き、到着するまでの時間を車の中で、たくさんおしゃべりしました。
現地に着き、みんなで拝殿にお参り。その後は、スタッフが一対一で付き添い、おみくじを引いたり、お土産を買ったりされていきました。
なかなか、出かけることが少ない利用者様は、「昔は毎月行きよった」と、久しぶりの参拝を喜ばれていました。

ゆたあ〜と写真館



願いを込めて・・・「七夕飾り」
(通所利用者様作品)



大きな大〜きな「ひまわり」
(通所利用者様作品)



「紫陽花」
(スタッフの家にて)

次号のゆたあ〜と新聞は、令和元年9月中旬に発行予定です。お楽しみに!!

〜支援医師紹介



福永 崇 医師 総合診療科(循環器科)

熊本大学病院循環器内科の福永崇と申します。平成12年卒で医師20年目になります。この度、2019年4月より、熊本大学へ帰局させて頂くこととなり、大学病院では循環器内科および救急総合診療部で勤務させて頂いております。

小国公立病院では、月曜日の循環器科外来を担当することになりました。多くの先生やメディカルスタッフの方々にご迷惑をおかけすると思いますがご了承いただき、ひとりでも多くの患者さまの医療に少しでも貢献できるようにしたいと思います。宜しくお願いします。

〜新職員紹介〜



川口賢一 事務員

今年の4月より、小国公立病院に事務として入社しました川口です。

これまでは熊本市に住み企業に勤めていました。初めての病院でも勤務になりますので、早くこの地域の医療に一助となれるよう、一生懸命勉強したいと思います。また、仕事だけでなく、小国の地域にも早く馴染みたいと思いますので、機会がありましたら色々とお話させて頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。



吉村友秀 事務員

4月から事務員として勤務しております吉村です。社会人としての経験が浅く、小国

も地元ではないため、まだまだ新しい事を知る毎日、度々ご迷惑をおかけしておりますが、何事も精力的に取り組んでいきますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い致します。



秋吉亮汰 事務員

こんにちは。事務局の秋吉亮汰と申します。生まれも育ちも小国ですので、住み慣れたこの町で働けることを大変嬉しく思います。

まだまだ経験が浅く、不慣れな点があるかと思いますが、少しでも力になれるように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお祈り致します。



鎗水定宗 介護職員
(おぐに老健)

5月より職員として勤務させて頂いております鎗水と申します。おぐに老人保健施設

を利用される皆様が、笑顔で尊厳ある生活ができますよう、日々努力して支えながら頑張っていければと思います。今後ともよろしくお祈り致します。